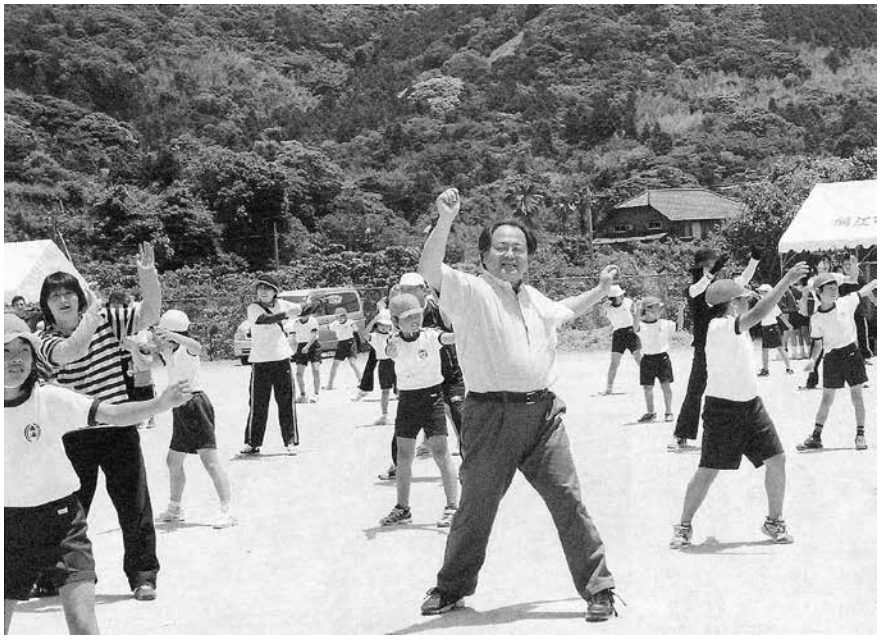


奥小ソーラン・眞浦神父様大ハッスル

島のひかり ホームページアドレス
http://lifeaidgoto.jpn.cx/simanohikari/

発　行
カトリック浦頭教会
広報委員会
五島市平蔵町2716
TEL 0959(73)0072
印　刷・㈲才津印刷所

司祭年―叙階20周年

主任司祭　眞浦　健吾

ベネディクト16世は、パウロ年に続いて、司祭の保護の聖人である聖ビアンネー神父の没後百五十周年を記念して、今年6月19日から一年間を「司祭年」と定めました。このことは私にとってとても意義あることになりました。それは、毎年毎年、司祭をして生きることはすばらしいことでもあるし、難しいことでもあるのですが、特に今年は司祭叙階20周年にあたるので、神様が与えてくれた良い機会として、自分なりに、いい年にしたいと思います。今から、35年前、「神父になりたいと」母に相談しました。少しびっくりした様子でしたが、母は何も言わずに、修道院に走って行った様です。当時のシスターたちと帰ってきました。「健も礼子（母の名）も神様の子供、いつかは神に返さんばいかんし、帰っていくと」と言われました。そこから召命の道が始まりました。自分ではまじめな神学生だったと思いますが、小神で6年間、大神学校で8年の期間を終え、平成元年3月17日に浦上教会で叙階されました。その後は、助任司祭として浦上教会で5年、主任司祭として井持浦教会で4年、天神教会で7年、そして浦頭教会で4年が経ちました。これが私の司祭としての歩みです。それぞれの教会でたくさんの信徒の方と出会い、いろんなことを学びながら、司祭の道を歩んで来れたんだなぁと感謝の気持で一杯です。それに対して、自分の努力や犠牲はどうだったのか反省します。叙階の記念のご絵には、大天使ミカエルのご絵を使い、裏の言葉には「私の羊を飼いなさい」と言葉を添えました。任命を受けて行く先々の教会の信徒の方々を、イエス様のように良き羊飼いとして、神様のみ国に導くことができるようにと言う思いからでした。司祭年にあたり、良き羊飼いと成れるようお祈りください。

隠れキリシタンの秘像
堂崎資料館に

五島市椛島芦ノ浦地区で永年信仰の対象として守り続けられていた隠れキリシタンの石碑が、7月1日椛島で受け取りのお祈りを捧げた後に堂崎資料館へ贈呈された。

石碑は同地に住む川辺チリさん（85才）が母のテヤさんから受け継いだもので、百年程前から祭られており「三次わん様」と刻まれている。

洗礼者聖ヨハネを隠れキリシタンの守り神として祭ったと思われるが、川辺さん自身も高齢となり今後の保存も兼ねて堂崎資料館に受け取りの依頼があった。

当日はジェットフォイル欠航の悪天候のなか、島の裏側（長崎側）に位置する芦の浦に眞浦神父様を筆頭に教会関係者、マスコミ取材陣等で上陸。

神父様司式のお祈りに川辺さんや地域の方々も加わって捧げた後、「三次わん様」「オラショノート」等受け取った。

隠れキリシタンの島として知られる椛島も、昭和50年代に全ての組織が後継者難のため解散し、その際お帳・オラショ等聖具類は堂崎資料館に預けられている。

今後、石碑を40年に及び守り続けた川辺さんの思いに答えるためにも、しっかりした形で展示しなければと考えている。

インターネットin島のひかり

カトリック浦頭教会のホームページ内、赤尾城司さんの御協力により、SNSという情報交換のページを新たに設置いたしました。

設置の目的

①島のひかりの記事に関する情報交換や交流の場として。

②浦頭小教区評議会におけるネット活用の場として。

③五島在住者や転出した信者の方々が集う場所としてなどなど、日本全国からアクセスして活用していただければと考えております。

SNSは、管理者や参加している方が招待状を発行しない限り参加できません。

当面は浦頭教会に関係あるカトリック信者に限定する予定です。将来的には、浦頭教会を中心として地域情報の場として活用できると思います。

SNS内には、参加した方が独自のコミュニティスペースを作成し、管理人としてアクセスを制限することが可能ですので、グループを作って独自に利用することができます。

SNSの参加を希望される方は、管理者の木口重憲までご連絡下さい。

おたより

時間に追われる毎日で、島のひかりを手にし、ホットひと息ついた感がしています。

佐世保　Sr赤尾　律子

ひとつのことを長い間続けることのうちに、実りがあると思います。長崎市　Sr木口　直恵

ありがとう

北九州市　竹山　隆　様
小江原　Sr木口　直恵　様
黒島町　Sr赤尾　律子　様
愛知県　浜辺　京子　様
佐世保市　松田トミ子　様

シメオン・アンナ友の会
正式に発足

二年前より、シメオン会は活動して来ましたが、今年度よりアンナ会も役員が決まり、正式に活動が始まります。どうぞ無理しない程度でよろしくお願いします。

（アンナ会の主な活動内容）

。婦人会の活動に協力できる範囲で、お手伝いをする。

。シメオン会の奉仕作業に合わせ植木等剪定の後片付、草取り等をする。

。結婚式など聖歌に関与する。そのための練習を二～三回考えられる。

。巡礼にこられた方々のお世話、話相手をしてくれる。

会長　鍋内義光　副会長　富上進・富上静枝

連絡員

シメオン会　アンナ会

浦頭(I)鍋内義光　鍋内美智子

浦頭(II)鍋内　孝　赤尾スエミ

浦頭(III)赤尾　勇　赤尾敬子

大泊　山見多喜雄　江口トミ子

浜泊　富上　進　富上静枝

堂崎　山本哲己　入口悦子

宮原　山口留幸　大櫛ヒサ子

嵯峨瀬　谷口栄子

古老は語る ③
汗した実りが子や孫に

浦頭　川口久米雄（89才）

浦頭地区の川口久米雄さんを訪ね、久し振りに懐かしい昔話に出会えました。

最初にかつて今まで聞けなかった少年時代、「小学3年生の時から、当時ショーノ山での製造の手伝いに小さい体で鍛えられたなー。色んな事情で初聖体、堅信も授かる機会がなく、高等科一年の一学期（13才）念願の秘跡を受ける事が出来ました。」

14才の頃に「奥浦向（おくらむかえ）」現、石山の前での半農半漁の生活が始まり漁師としていろんな漁を習い、時に小さい「テンマ船」で大しけに会う事も度度だったと言う。

20才の時、徴兵検査に幸か不幸か合格し、3ヶ月後に早速戦場へと、4年間生と死の境を体感し苦い思い出が今でも脳裏をかすめると言う。

戦後、25才の時、最愛の「トミ」さんと結ばれ二人三脚の生活が始まった。仕事のかたわら教会との関わりも始まり、現教会の建堂祝別と同時に、初代使徒職協議会会長としての役職の任を担い、初代主任神父様を中心にして「司祭館」次いで信徒の集いの場である「神羊館」建設と、大きな事業を次々と計画され、資金ぐりを巡って日夜会議の連続だったと言う。

又、仕事は市の維持係の重責だった事もあり、信徒関係の職員6～7名の協力を得、材料資材を借り受けて、現在の教会掲示板を始め、参道の拡幅舗装工事など、休む間もなく休日を利用して奉仕に専念された。

更に社会的には、是非教会代表として市議で頑張って欲しいとの要請を受け、仕事の事、家庭的な色んな事情をはね除けて、出馬を決断。二期8年議員として新たな任務を背負い活躍された。

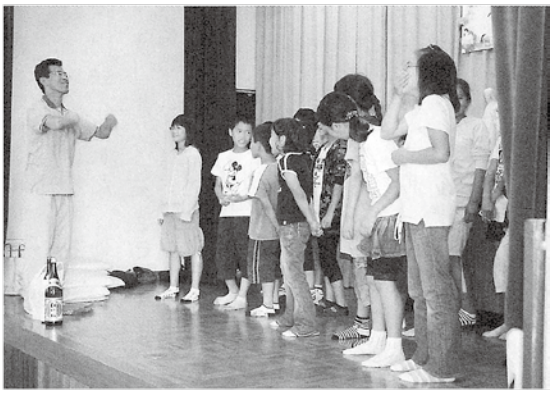
この紙面だけでは語り尽くせない川口さんですが、これだけは伝えて欲しい『教会役員として、多くの信徒のみなさんの御支援を頂き、今でも感謝の気持ちで一杯です。』と語る川口さん!!どうかこれからも体をいといながら大好きなゲートボールを楽しんでください。

眞浦神父様誕生会

六月七日、午後四時より眞浦神父様の47歳の誕生会が、神羊館ホールで行なわれた。

信仰教育委員会の主催により子供中心（約35名）教会役員の参加で全70名が集い楽しいひとときを過ごした。さらに嬉しかったのは、前委員長の川口清人さんが作ってくれたポスターが大変素晴らしく一際ひかっていた。

この日、二番ミサ後には、子供たちより神父様へ花束贈呈があり、ミサ礼拝に参加した方々で誕生会をお祝いした。



この日のために注文した料理の他に、婦人会が揚げ物、地区委員会はお菓子、他に刺身や飲み物などの差し入れなどがありテーブル一杯となった。

この誕生会いつまで続いたか定かでないようです。眞浦神父様の御健康と、御指導をよろしくお願いいたします。

ルルド祭（井持浦）

5月24日(日)、清々しい好天に恵まれ、井持浦ルルド祭が下五島中の信徒を集め、盛大に行なわれました。

例年のように、井持浦教会下の町民グランドに全員が集合し、祈りと聖歌、そして花びらが舞う中、聖母像を先頭に「ルルド」を目指して行列が進みます。

そして、教会下のきつい坂をゆっくりと上り、ルルドに到着。荘厳なミサが捧げられました。

今から約150年前に、フランスのピレネー山脈のふもとの小さな村、ルルドで少女ベルナデッタの前に現われて下さった聖母マリアを想い、そして、聖地に集う巡礼者・五島のこの地にルルドを作った偉大な先人たちに想いをはせながら、ミサにあずかりました。

島田喜蔵神父ものがたり（1）

長崎ウエスレヤン大学講師（非常勤）
加藤久雄

トマス島田喜蔵神父は、信徒復活以降の五島列島最初の司祭である。上五島の中通島北部の江袋集落に生まれた。生まれたのは安政三（一八五六）年三月十五日、父は文作、母は自勢といった。祖父は、島田鷲兵衛といい大村藩の元藩士だったと伝わる。母は浦頭集落出身で、その祖父を伊五郎といい外海地区牧野から五島へ移住した人だった。島田神父は、父を上五島の江袋集落、母を浦頭集落という、まさしく生粋の五島の神父である。

江袋集落は、中通島の北部、現在の主任司祭の眞浦健吾神父様の故郷、仲知地区の隣に位置し、仲知小教区に属している。カトリック信徒が百パーセントを占める。この小教区では、島本要大司教をはじめ多くの聖職者や司祭を生んだ信仰の強い小教区である。また、元長崎市長本島等氏等の著名な政治家を生んでいる。

江袋集落は浦頭集落をはじめとした旧奥浦村の信徒同様に、明治の初期には弾圧を受け、粘り強く信仰を守り通した人々の子孫が生きる地でもある。江袋集落のある魚目半島は、平地が狭く、切り立った断崖が多くを占め、やや傾斜が緩やかな山の中腹の土地に貼り付くように教会堂や信徒の暮らす家があり、大村領から五島へ渡った潜伏キリシタンの生きた厳しい生活環境を感じる風景がある。江袋集落の信徒は、今も毎週、十字架の道行の信心業をおこなうほど、信仰に満ちている。

眞浦神父様をはじめ、お告げのマリア修道会のシスターの皆さまなど、この仲知小教区ご出身の方が現在でも、浦頭小教区の信仰に尽くしておられる。まさしく現代でも、信仰で浦頭小教区と仲知小教区の二つの教区はつながっているのである。

五島キリシタンは一つ、私は、これまで筋金入りのキリシタンの末裔である五島のカトリック信徒と触れ合う機会を多く得ている。五島各地には境遇を同じくする外海地区を中心とした潜伏キリシタンの末裔が、五島のカトリック教会を支えているのだ。浦頭集落の生まれの母と仲知小教区江袋集落生まれの父を持つ、島田喜蔵神父こそ、全五島のキリシタンの歴史を象徴する重要な人物ではないだろうか。そして島田神父に流れた血のつながりが、時を超えて両小教区を結ぶ架け橋になり続けるだろうことを皆様に伝えるために、筆を進めていく。

（次号に続く）

海から見た江袋集落
中央－修復中の江袋教会

前号において、訂正及び記載洩れがありましたことを、おわび申し上げます。（以下敬称略）

浦頭小教区評議会
（訂正）
信仰教育委員会
副委員長
　　川口孝章
カテキスタ
　Sr白浜（小５、６年）
地区委員会
　宮原（補佐）
　　大楠末子
　大泊（補佐、会計）
　　梅木　強
広報委員会（島のひかり）
委員　江口初子

おとうさん おかあさん ありがとう

ぼくのおかあさん

一年 入口しゅん一郎

ぼくのおかあさんのなまえは、いりぐちのぞみといいます。ぼくのおかあさんは、おとうとのけいしろうのためにがんばっています。そんなおかあさんが、とってもだいすきです。ぼくもこれからてつだいしたいです。かみさまこれからもたくさんおめぐみください。ぼくもたくさんおてつだいします。

私のおかあさん

二年 入口 舞桜

私のおかあさんは、入口のぞみといいます。かぞくは6人です。おとうさんは、入口しょうじといいます。おねえちゃんは、入口あやのといいます。おとうとは、しゅんいちろうと、けいしろうと2人います。おねえさんは1人います。おかあさんは、しごとをやすんでいます。けいしろうは、生まれつき心ぞうのびょうきですが、がんばっています。いまは、元気です。おかあさんは、いつもがんばっています。自分は、どうおもっているか…。おかあさんは、いつもごはんをつくってくれる。おてつだいをしてあげると、よろこびます。これからもお母さんのてつだいを、わたしも、がんばります。

ぼくのおかあさん

三年 鍋内 颯太

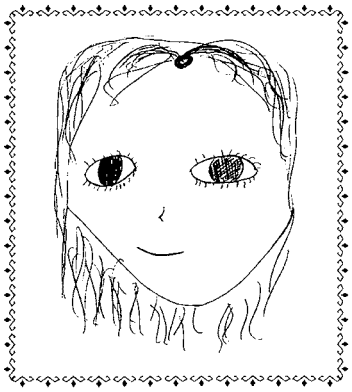
ぼくのお母さんは、やるときはやるお母さんです。ちなみにお母さんの名前は鍋内ゆきこと言う名前です。おしごとは、ほいくしで、ほいく園では、自分のことを、ゆきこひめと言えといいます。運動会では、きあいをいれて、昼ごはんをつくってくれます。きあいがはいっているので、ぼくもきあいがはいります。かけっこでは、きあいをいれて、ガンバレーと、おうえんしてくれます。お母さんのつくる夕ごはんは、おいしいです。さいごに、これからもよろしくおねがいします。

鍋内ゆきこさまへ

私のおかあさん

三年 大浦あかり

私のお母さんは、大浦しずかです。お母さんは、私がお父さんにおこられたら、はげましてくれるお母さんです。おかあさんはパーマがかかりにくいので、まえかけたけどさいきんパーマがとれてきました。だけどまえがみはくるくるです。バレーがおわってつかれているとお母さんが「きのせい、きのせい」といってつかれていても少しずつとれていきます。



ぼくのおかあさん

四年一組 濱崎 壱成

ぼくのおかあさんはやるとき

はやるおかあさんです。
ぼくのおかあさんの名前は、濱崎喜実子です。
ぼくのおかあさんはいつもかぞくのことを見ています。
こんどからはお母さんのおてつだいをがんばります。
ぼくもじしゃをがんばります。ぼくにもおめぐみをください。ぼくもおいのりをがんばります。

父の日について

五年　梅木　竜二

ぼくは、父の日は、なにもしていませんでした。父の日なのにぼくは、おとうさんになにもしていません。ぼくは、お父さんに何をしてやろうかなーと思いました。だけど何もおもいつきませんでした。
お父さんになにかしてやりたいなーと思いました。しかし、何もうかばずに父の日はすぎていきました。今年は、父の日に、いつもぼくたちのためにがんばってくれてありがとうといってあげたいです。

父の日について

六年　大浦　優希

私が父の日について考えることは、「お父さんがいる」。ということです。お母さんも同じです。私が今、生きていることは、お父さんとお母さんがいたからです。お父さんにもお母さん、お父さんがいます。みんなお父さん、お母さんがいたから生きています。私はお父さんをそんけいします。そして、お父さんがいることに感謝します。お父さんがいて良かったと思います。これからは、もっと家族を大切にし、助け合っていこうと思います。

鉄人レースを終えて

木口　北斗

そこには大勢の人に囲まれ家族と共にゴールテープをきる自分の姿がありました。
「なぜ自分はトライアスロンを始めたのか」アイアンマンレースに出場を決めてから3ヶ月の間、連日のハードな練習で身体は疲れきり、トライアスロンを始めた目的さえ見失っていました。
自分の力だけではスタート地点に立つことさえ出来なかったでしょう。家族の支えと「レースを完走する姿を子供に見せたい。」という気持ちは、練習で疲れきった身体を何度も奮い立たせてくれました。
レース中も「きつい。リタイヤすれば楽になる。」と何度も思いました。そんな言葉が頭を過ぎる度に家族のことを思い浮かべ走り続けました。ゴール直前で家族の姿を見たときは自然と涙が止まりませんでした。3ヶ月間で私は大切なものを得ることが出来ました。一般的には、それを「家族の絆」だとか「家族への愛」という言葉で表すのでしょう。私の持っている言葉では、「大切なもの」を正確に表現することは出来ませんが、家族にとって財産になることは間違いないと思います。
最後に応援してくださった皆様とボランティアに参加してくださった皆様、支えになってくれた家族に心から「ありがとうございました」と言いたいです。

ふるさとだより

子らよ、たくましく

五月三十一日、奥浦小学校の春季運動会が開催された。

この日は天候にも恵まれ、絶好の運動会日和であった。児童も近年は少なく全校で52名だけと何か淋しさを隠しきれません。でも児童らは、そんな事はおかまいなし元気一杯頑張っていた。さらに奥中の生徒達も出場し、全力で走っている様は、さすが先輩と拍手。子供が少なくなれば保護者、育成協が一丸となって活躍していたようです。

やったぜ！奥中男子バレー部

五月二十四日、五島市中総体において、男子バレー部が見事優勝旗を手にした。第一試合の福中戦では、あわやと思うほどの白熱したゲームの末の勝利。勝った時の喜びもひとしおであった。只今、七月二十六日の県大会に向けて、猛特訓中である。

また、六月十四日には、中総体陸上大会が行われ、僅かの練習期間にもかかわらず健闘し、女子共通砲丸投と、男子共通走幅跳が県大会出場を決めた。

結果：奥浦２－０福江
奥浦２－０翁頭

蛍観賞会

六月六日・七日、久賀島の猪の木川において奥小、久小合同蛍観賞会が行なわれました。会に先立ち、ゲーム等を通じて仲良くなった子供達は、午後八時頃、宿泊地の住民センターを出発。漆黒の闇の中、静寂をなお際立たせる様に流れ去る透明の上を、数十匹の蛍達が乱舞する様は、幽玄の感を強く印象づける。子供達は時を忘れて、明滅する光達の揺れ動く様を目にしっかりやきつけていました。

会に参加した奥小の子供達（久賀、折紙展望台）

編集後記

去る、六月三十日、奥中の学び舎に誇り高き登山家が集い語った。七千、八千という高き峰に戦いをいどんでいく岩田氏のチャレンジは、人が極限状態におかれた時、どうなっていくのか、そこで大切なものは何なのかを考えさせられる内容だった。一緒に登った女性登山家が高山病で昏睡状態に陥った時、ここまで来てあきらめるわけにはいかないという気持ちと、仲間を絶対無事に下山させるという、一時の猶予も待たない決断をしなければならない。そこに山の恐ろしさと、それでも戦おうという意志の強さを感じ、真っ白な雪の中で猛々しい山頂をしっかと見上げている様な一枚の絵が鮮やかに浮かんだ。

岩田さんは最後に、「みなさん。ふる里の自然を大切にして下さい。」という言葉でしめたが、自分も一ヶ月程前、子供達と見た猪の木川で乱舞していた蛍達を思い出し、同じ気持ちを抱いた。

木口　重憲